

「わたしたちの体育」を利用した学習事例（第3学年）

丸亀市立城西小学校 朝賀 優樹

第3学年	単元名	タグラグビー
指導時間	8時間	児童書掲載ページP78～P83

【単元の目標】

- ・タグラグビーの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることができるようにする。
- ・規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。
- ・タグラグビーに進んで取り組み、規則を守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友だちの考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【安全にみんなが運動できるように・・・はじめに約束しよう、確認しよう】

- ・ボールはやコーンなどの用具はみんな準備・片付けをする。
- ・使わないボールはかごに入れておく。
- ・ベルトの余った部分は、ズボンの中に入れるか、ベルトに巻き付けて、下に垂らさない。
- ・きちんと並んでゲームの始めと終わりの挨拶をする。
- ・相手をおさない。
- ・タグを取ったら、その場で手渡しで返す。
- ・友だちのいいところはチーム関係なく認める。

【学習活動 第1時～第8時】

第1時

オリエンテーション

①学習の目標と進め方を知る。

○児童書（P78～83）を使って、実際の活動も組み込みながら、学習の目標と進め方を説明する。

- ・運動の楽しさや学習の目標を説明する。
- ・単元の流れに沿って、どのように学習を進めるかを説明する。

学習の
目標

○ゲームの行い方を知り、ゴールにボールを持ちこんだり、相手がいなくて動いたりして、タグラグビーができるようにしよう。

○チームのかたちを見つけ、ルールをくふうしたり、作せんをえらんだりして、自分で考えたことをつたえよう。

○友だちの考えをみとめたり、勝はいを受け入れたりして、進んで運動しよう。

②用具等の使い方について知る。

○ベルトの付け方、タグの付け方や取り方、返し方、片付けの仕方について知る。

- ・取り方：「タグ」と言って取る。
- ・返し方：相手がパスを出したらすぐに返す。取られた人はタグを付けてからプレイに参加する。



・ラグビーボール



・やわらかくて大きいボール



・こしにタグを2本つける。
・タグのかわりにタオルも使える。

③きまりや、学習の場、安全面について知る。

○きまりや学習の場、安全面について知る。

相手ボールになる場合



・パスを前に出したとき
・ボールをかけたとき
・タッチラインからボールを出したとき

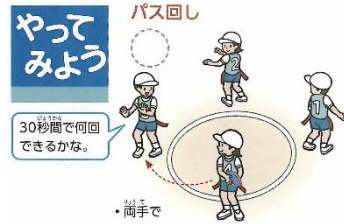
ファウル



・タグをとりこむ手をはらったとき
・相手をつかんだとき
・つきとばしたとき

④「やってみよう」を行う。

○ボールを捕る・投げるなどの基本的なボール操作と、相手をかわしたり追いかけたりする動きを身に付けられることをねらいとする。活動①で行うゲームに生かすことができるように継続して行う。



【パス回し】

○ねらい
味方が捕りやすいパスを、自分の斜め後ろに早く正確に投げる動きを身に付ける。



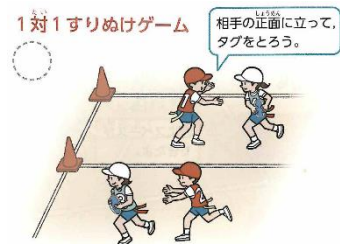
【3人パス】

○ねらい
走りながらパスをしたり捕ったりする動きや、ボール保持者の後ろをついて走る動きを身に付ける。



【タグとりおに】

○ねらい
タグを取ったり、タグを取られないように、逃げたり身をかわしたりする動きを身に付ける。



【1対1すりぬけゲーム】

○ねらい
相手の正面に立ってスピードを止めたり、それをすり抜けて走ったりする動きを身に付ける

⑤学習のまとめの仕方を知る。

○「学習のあしあと」の使い方を説明する。

学習のあしあと

ゴールにボールを持ちこんだり、相手がいないところに動いたりして、タグラグビーができましたか。

○ よくできた

○ できた

△ がんばろう

チームのか題を見つけたり、活動をくふうしたりして、自分で考えたことをつたえましたか。

友だちの考えをみとめたり、勝はいを受け入れたったりして、進んで運動ができましたか。

1

2

第2～5時

①めあてを確認する。

○めあてを確認し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

活動① かんたんなゲームをしよう。

②「やってみよう」を行う。

○タグラグビーに必要な動きを身に付けることができるようにする。

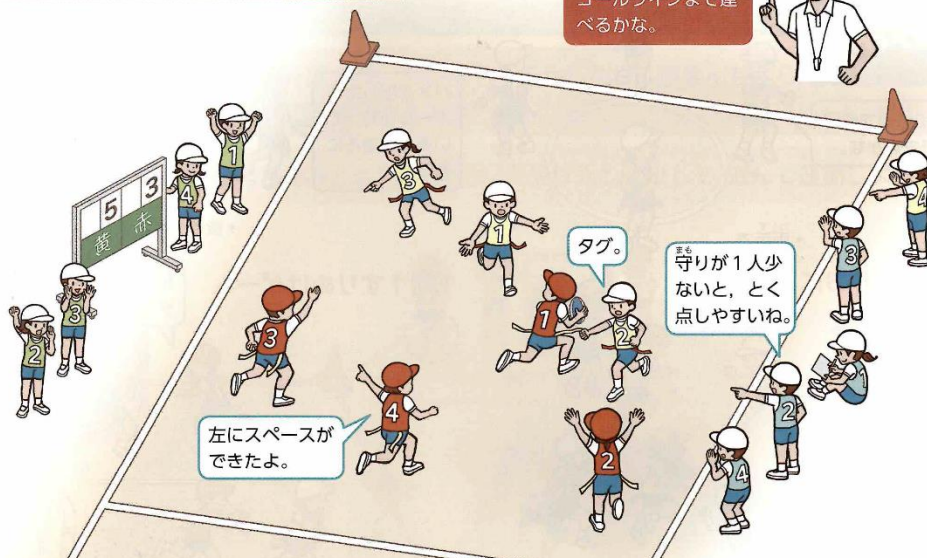
③活動①を行う。

○児童書 (P. 80) の「もとなるゲーム」、「ゲームの進め方」を参考にしながら、簡単なゲームを行うことができるようにする。

- ・守りの人数を攻め的人数より1人少なくし、得点を取る楽しさを味わいやすいようにする。
- ・ルールを守り、活動できるようにする。

4対3 ハーフコートタグラグビー

どのようにつなぐと、ゴールラインまで運べるかな。



④ うまくいったことや課題について、チームや全体で伝え合う。

- 見付けた動きのポイントや考えたことを友だちに伝えることができるようにする。
 - ・ ゲーム終了後、振り返る機会を設定することで、チームの課題を共有することができるようにする。
 - ・ ICT 機器を活用することにより、自分や友だちの動きを確認できるようにする。
 - ・ 共有したことを基に、課題の解決に向けた活動を行うことができるようにする。

【苦手な児童への配慮と言葉かけの例】

- パスを出したり、キャッチしたりすることが苦手な児童
 - ・ 空気の少ないボールや柔らかくて大きいボールなどを使う。
 - ・ ボールを持ったときに、周りの状況を見るように声をかける。
 - ・ 止まった位置でパス→ゆっくり走りながらパス→遠いところにパスというように段階的に練習をする。
 - ・ 手渡しパスも有効な攻め方の方法として、紹介する。
 - 「相手の胸にめがけてやさしく投げてあげよう。」
 - 「胸の前で手を広げて、キャッチの準備をしよう。」
 - 「味方に手渡しでパスをしてもいいよ。」
- ボールを保持して動くことの苦手な児童
 - ・ ボールを持ったら、タグを取られるまでは前に進むことを意識できるようにする。
 - 「タグを取られるまでは、止まったり戻ったりしないようにしましょう。」
- パスをもらいやすい位置に移動することが苦手な児童
 - ・ ボール保持者の後ろをついて行くことを意識できるようにする。
 - 「ボールを持っている人の背中がいつも見えるように走ろう。」
- ポイントを意識しながら、活動できるように助言する。

⑤ 共有したポイントを意識して、もう一度活動①を行う。

⑥ 本時のまとめをする。

第6～9時

① めあてを確認する。

- 学習活動のまとめをし、次時の意欲喚起につなげる。

ルールをくふうしたり、作せんをえらんだりして、ゲームをしよう。

② 「やってみよう」を行う。

③ 活動②を行う。

- タグラグビーに必要な動きを身に付けることができるようにする。

- めあてを確認し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

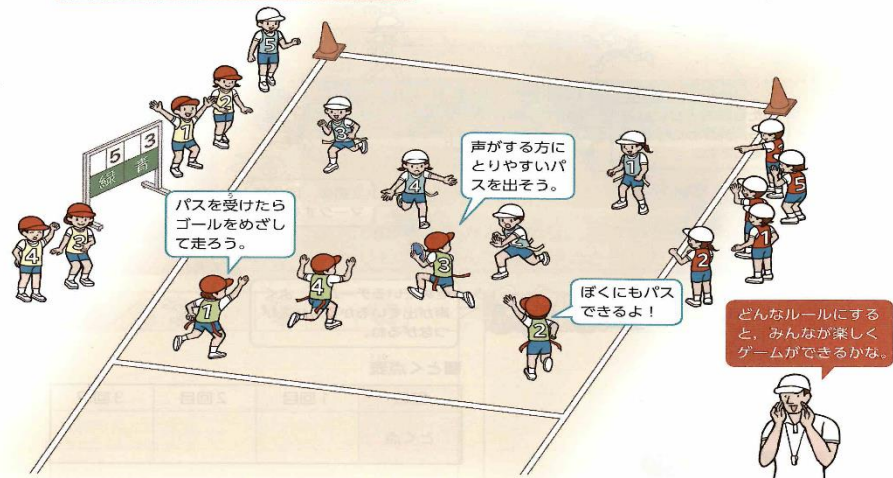
【場やルールの工夫】

- 場の工夫
 - ・ コートの横幅は 15m～25m となっているが、児童の実態に応じて 12m 程度にすることもできる。そうすることで、走り抜けるスペースが少なくなり、パスの必要性を高めることができる。

○ルール工夫

- ・全員がトライを決めたら+5点などのルールにする。得点をできていない児童やその友だちに、動き方のアドバイスをするなどの配慮をするとよい。
- ・初得点を10点にするなどのルールにする。学習カードなどで誰がまだ得点できていないか、分かるようにする工夫が必要である。
- ・ラッキーマンの得点は2点にするなどのルールにする。ラッキーマンになる児童が言うも同じにならないようローテーションに配慮が必要である。

4対4ハーフコートラグビー



- ④うまくいったことや課題についてチームで話し合い、簡単な作戦を選ぶ。
- ⑤作戦を意識して、再度ゲームを行う。
- ⑥本時(単元)のまとめをする。

- うまくいったことや課題について、児童書(P81~83)に記述し、チームで伝え合う。
 - ・共有したことを基に、課題の解決に向けた活動を行うことができるようにする。
 - 「コートを使う作戦もいいね。」
 - 「フェイントの動きを使ってみよう。」
- 作戦がうまくいっているチームを称賛する。
- 「学習のあしあと」を参考に単元を振り返り、個人・チームの伸びや頑張りを称賛する。

【評価の観点】

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーを基にした易しいゲームの行い方を知っている。 ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きをすることができる。 ・陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることができる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・規則を工夫している。 ・ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んでいる。 ・課題の解決のために考えたことを友だちに伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・易しいゲームに進んで取り組もうとしている。 ・規則を守り誰とでも仲よく運動をしようとしている。 ・勝敗を受け入れようとしている。 ・友だちの考えを認めようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けている。

【学習を通しての児童の反応、児童の感想】

児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・空いているスペースを見つけて走り込むことができた。 ・味方にパスをするふりをして、そのまま走ることができた。 ・自分たちで選んだ作戦を意識しながらプレイしたり、プレイをみたりすることができた。
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守ってゲームができた。勝っても負けても、みんなで楽しくできてよかった。 ・空いているスペースを見つけて走ったらトライできたよ。 ・たくさんシュートを決めることができて嬉しかった。

【「わたしたちの体育」を活用した学習について】

- ・教師用指導書P132~133の「展開例」を参考に本単元の学習展開を考えるとともに、児童書P79のファウルを単元初めに指導することによって、安全・安心な学習を展開することができた。また、P79の「やってみよう」を行うことによって、苦手な児童もラグビーの楽しさに触れることができた。